

萩と恵

—えいちけい—
平成23年(2011)

10月1日 NO.47

日本ヘレンケラー財団
<http://www.helenkelle.or.jp>

萩
知
恵

ヘレンケラーさんのイニシャル文字「H.K」の象徴です。
『萩知』は、深遠な道理を悟る才知とすぐれた知性を言い、『恵』とは、天地のいつくしみです。
『萩知恵』とは、森羅万象の情けと、人間の知性の融合という意味であります。



さらなる飛躍をめざして!

障がい者自立支援法への移行が完了しました。

詳しくは次ページにて。



【特集】さらなる飛躍を目指して

今年度の四月より、法人内の全事業所が自立支援法による指定を受けることができました。法人の理念でもある「利用者の尊厳を護る」「無差別平等な自立支援」が新法の中でどのように継承されているか、ご紹介いたします。

太平ビフォーアフター

(太平)

太平は、四月より新法へ移行し、あらためてスタートを切りました。三月以前と何が変わったか…。利用者の表情が変わりました。これはただ単に表情が良くなつた、と言ふことではなく以前より表情が豊かになつた、ということです。

一日の流れの中でも一番大きく変わつたことは、作業の確立です。午前、午後ともに実施しています。作業は八つありますが、七十五名の利用者の振り分けには時間をかけました。個々に合つた作業内容であるか、折り合いの悪い者同士が集まつていなか、再考に再考を重ねました。太平は広い敷地、豊かな緑が特徴です。棟が離れて建つてゐるため、各棟へ移る際



新たな出発

(さつき園 まつのき園)

を行なうことができます。他に、縫い物を主にしている作業C班や、手指運動やアロマオイルのマッサージなどでリラクゼーションを追求する作業A班、園内の畑で野菜を育てる農耕チームH班。このように各作業が『顔』を持つようになります。今日も太平では、それぞの作業が表情豊かに稼働しています。

小野阿津美



太平ビフォーアフター

(太平)

太平は、四月より新法へ移行し、あらためてスタートを切りました。三月以前と何が変わったか…。利用者の表情が変わりました。これはただ単に表情が良くなつた、と言ふことではなく以前より表情が豊かになつた、ということです。

の靴の履き替えや悪天候を凌ぐための動作など、面倒に感じることが多々あります。しかし今回、そのような作業場所への移動が、生活リズムの切り替えになるという効果が見られています。

さて、前回の事業所ニュースで紹介『自閉症サービス』(参照)しました行動障害の方の作業はB班です。現在、ずいぶん落ち着きました。構造化された空間にし、障害特性に合つたルーティン作業

就労継続支援B型について、一日を通して作業に取り組み、その中で目標を持ち、将来的には一般企業等に就労を目指して、作業を頑張っています。時代の推移とともに、求められた基準に合わせないといけませんが、利用者さんにとって、今回は大きな変化があつたため、少なからずとも不安感を感じられたかと思ひますが、ようやく新体系に移り、溜飲を下げる思いだつたのではな

ります。午後の日中活動は、音楽活動や創作活動等といった内容で、要望に応じながら随時変更を踏まえ進めています。

いでしょうか。今後とも職員一人ひとり協力をしながら、丁寧に業務に努めたいです。



新法移行について

(此花)

西川佳孝

一名と大幅に職員数が増えました。移行に向け徐々に職員を増やす様にしてきたので、大きな混乱はありませんでした。また、送迎サービスを実施した事で、利用者さんの出席が増え、順調に実施出来ております。

私の仕事の変化としては、サービス管理責任者となり、利用者さん全体のサービスを管理する立場となりました。利用者さん、ご家族との面談、個別支援計画書、サービス提供記録の作成など事務仕事も増えました。

移行後、色々と変化はあります
したが、今の自分の仕事を精一杯
頑張り、より良いサービス提供に
努めたいと考えています。

新座 啓介

新体系に移行して

(一
太伯)

四月より当事業所は知的障害者通所更生施設から、生活介護事業所へと変わり、新たに送迎サービス(「自宅近くまで、事業所の自動車で送迎する」)を始めました。また、五月より、此花第2太平学園から、『ぶるうむ此花』に名称が変わり、給食提供も自営からナフス株式会社への委託になりました。これまで、十五名程度の職員数で、事業運営を行つてきましたが、移行後は二十

設入所支援を行っています。今回は主に日中の生活介護を中心に紹介していきます。

まず生活介護の支援方針として、障がい者権利条約に基づき、利用者は保護の主体ではなく、権利の主体であり生活の主体者であることを念頭におき、私たち支援者はエンパワメント・ストレングス・ソーシャルインクルージョン視点を重心に置き、個人支援を目指し施設生活のQOLの向上に努めます』を掲げています。

用者五十二人のそれぞれにあつたプログラムが目標ですが、なかなかすぐに実現は難しいため、いくつかの選択肢を用意し、そこから選んでいただくようなシステムにしています。

また、その選択肢も職員主導ではなく、利用者が組織する自治会（毎月月末に一度開催）の中で、自分たちが今やりたいこと、興味のあることを提案してもらい、それを順に毎日のタイムテーブルに反映しています。

四月からの一例として、ダンス教室・書道教室・地域主催のクツキング教室・スポーツクラブを行い、利用者には大変好評です。

最後に、先の生活介護の話から新体系に移行して、利用者の様子が大きく変化してきています。保護の主体から権利の主体として、毎日の生活は自分達が決めたいという思いが芽生えてきているからだと感じています。

そして、最後に活動内容に関しては、『大人への支援』という視点を中心に、個々の趣味や関心を取り入れた活動内容を考えました。

実際にタイムテーブル（日課）を作成するに当たっては、以前までにあつたような集団プログラム的なタイムテーブルは作成していません。個人支援を目指して利

今後も少しでも多くの意見を実現し、社会に生かされていると喜びを一人でも多くの利用者に感じてもらえるよう、職員一同真摯に取り組んでいきたいと思
います。

中尾
剛之

◆盲児施設 平和寮

平和寮保育園



平日朝十時。積み木やひも通し・パズルなどのおもちゃの中から子どもたちが自由に選んで遊ぶ施設内保育が始まります。チャイムの音が聞こえてくると、お片づけをして「おはようございます！」と元気にごいさつ。

いさつができると、大好きな「どうぶつ体操」や「きゅうりができた」などのふれあい遊びでいっぱい身体を動かしています。そして、お楽しみの設定保育が始まります。設定保育では、季節にあつた遊びや制作に取り組み今年の夏は、中庭にプールを出して水遊びを楽しみました。

保育の積み重ねにより、少しずつですが成長していく姿を見ることができます。保育を通して、子どもたちが楽しみながら成長できる保育園を目指しています。

藤井 美佐子

◆I.L.伯太

韓国旅行の思い出

私たちは、六月二十一日から二十三日まで韓国旅行に行つて参りました。行つたメンバーは、男性職員一名と男性利用者さん二名でした。初の海外旅行ということで、言葉が通じない不安と、何が起こるかわからない不安でいっぱいでした。

現在は、四歳の自閉症児と三歳の広汎性発達障がい児の入所児童二名に対し『ボーテージ』(発達遅滞乳幼児のための早期療育プログラム)を活用して、それぞれの発達段階に即した保育内容で取り組んでいます。

保育の積み重ねにより、少しずつですが成長することが増え、日々成長していく姿を見ることができます。保育を通して、子どもたちが楽しみながら成長できる保育園を目指しています。

まず、第一関門として韓国行きの飛行機が不安でした。しかし、利用者さん二名とも飛行中は穏やかに過ごしておられました。一日目は、韓国に到着してから買い物に行き、夕方には現地ガイドのおすすめの焼肉食べ放題の店で飲食しました。お二人ともとても美味しそうにたくさんおかわりされていました。

二日目は、朝早くから起牀し、他の日本人客と一緒に世界遺産のツアーリに行きました。あまり観光には興味は示されませんでしたが、他の国の文化について触れることができ、とても良い刺激となりました。

三日目は、朝はゆっくり起牀し、お二人の希望でスター・バックスカフェに行きました。普段飲むコーヒーとは違い、美味しいかったようでオープンテラスがより一層コーヒーの味を引き立てていたように感じました。

最後に、日本に帰国するための飛行機が満席で、職員と利用者さんが隣同士ではなく、全員違う席になつたため、利用者さんが安心して過ごせるかとても不安でした。しかし、何のトラブルもなく、無事に帰国

出来たので一安心しました。

今回の旅行で利用者さんお二人はとても楽しんでおられ、来年はまた海外に行きたないと言つておられました。

なかなか利用者さんと海外旅行に一緒に行くことは不安な部分もありますが、今後も私たちI.L.伯太の職員は、利用者さん一人ひとりのニーズに寄り添つて、海外旅行も継続していきたいと思います。

西田 真基



送迎サービスは近隣の此花区周辺から市内周辺各地へワゴンボックス型の自動車三台で地域を分担して行っています。そして、これからは更に送迎



ぶるうむ此花では平成二十三年四月より、希望される利用者の方を対象に送迎サービスを開始致しました。

近年、利用者さん自身、また通所に付き添われるご家族の方々の負担が増加している状況にあり、その課題を改善すべく送迎サービスが始まりました。

◆ぶるうむ此花 送迎サービス

◆ぶるうむ此花

◆各駅停車

二丁目

生活介護『一丁目』がスタートして三年が経ちましたが、少しずつメンバーさんが増えてきました。この春分室『二丁目』が完成しました。

完成した時にすべてのメンバーさんに「二丁目」を見てもらい、スタッフと話をしていると、みなさん初めはあまり「一丁目」の分室といつてもピンと来ませんでした。

サービスを利用する方が増える事が予想されます。現在の体制でそれに対応出来るのか、また送迎サービスを利用することで、交通機関の利用が無くなり、利用者の方が持つ能力や社会性が損なわれないか、など様々な課題はあります。

送迎サービスによって遅刻や欠席される方が減り、ご家族からは負担が減ったとの声を聞けると、サービスを開始して良かったと感じています。

寺岡 達彦



川端 悠太

暑い夏も何とか乗り切り、秋・冬にむけて、創作活動・外出機会も充実させて行きながらも、メンバーさんのペースを大切に、『一丁目・二丁目ペース』でのんびりゆっくり過ごせる空間を目指して行きたいです。

川端 悠太

暑い夏も何とか乗り切り、秋・冬にむけて、創作活動・外出機会も充実させて行きながらも、メンバーさんのペースを大切に、『一丁目・二丁目ペース』でのんびりゆっくり過ごせる空間を目指して行きたいです。

地域生活支援センター『じよいふるはかた』は、太平学園（現・太平）・太平ホームと伯太学園（現・I.L.伯太）・伯太ホームスマイルとが合併し、四月一日から新事業所として始動しました。名前の由来は、太平から喫茶店じよいふるの名前と、両施設が伯太町にあり、I.L.伯太の名前でもあることから、「じよいふる」と「はかた」をくつづけて「じよいふるはかた」と命名されました。

現在はグループホーム・ケアホーム事業のみを行っており、総勢四十一名の利用者さんが和泉市で生活されています。二つの事業所が一つになつたことで、何かと慌ただしく四月五月はあつという間に過ぎていきました。まだいろいろな調整段階の案件もありますが、今後は入居されている利用者さんの余暇活動の確保や、日中活動の場を検討していく予定です。よろしくお願ひします。

三宅 裕子

◆じよいふる伯太 障がい種別を超えて

◆じよいふる伯太

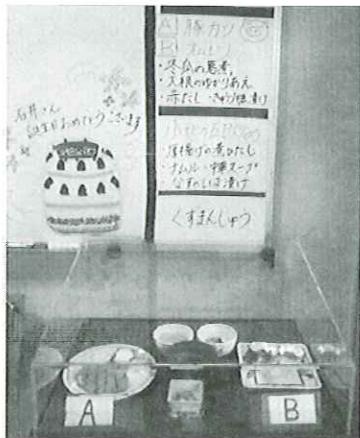
いない様子で、ほとんどの方が今まで通り「一丁目」で日中活動をされることを希望されました。中には「二丁目」に行くということは「一丁目」は辞めなければならないのか?と心配しているメンバーさんの姿も。

「一丁目」と「二丁目」合わせて三十名のメンバーさんと一緒に活動するように体制をかえて半年経ちました。現在ではメンバーさんそれぞれに活動しやすい方を選んでもらい、出来る限りニーズにお応えできるよう日々頑張っています。

地域生活支援センター『じよいふるはかた』は、太平学園（現・太平）・太平ホームと伯太学園（現・I.L.伯太）・伯太ホームスマイルとが合併し、四月一日から新事業所として始動しました。名前の由来は、太平から喫茶店じよいふるの名前と、両施設が伯太町にあり、I.L.伯太の名前でもあることから、「じよいふる」と「はかた」をくつづけて「じよいふるはかた」と命名されました。

◆今池平和寮

人気メニュー発表！



- 1位・お造り（特に鮨）
2位・焼肉
3位・天ぷら
4位・豚カツ／にぎり寿司

(同点)

今池平和寮ではお誕生日の当日に、ご本人希望のメニューを昼のA食として提供する「お誕生日メニュー」を実施しています。希望されるのはやはり人気メニューが多くため、利用者全員、この日を楽しみにしておられます。

今回、この場をお借りして、ソーンキングを発表させて頂きます。

◆救護施設 平和寮

生活の場として そして
『一會』のさまざまな活用法

居宅生活訓練事業『一會』を

現在地にて事業展開するようになつてから、四年余りになります。

『一會』のある昭和町周辺は、昭和初期に建てられた町屋や長屋を保存・活用する取り組みが盛んで、一會として使用している「佐野家住宅」は国の登録文化財に指定されています。

なるほどと思われましたか？

お造りは、夏場は提供していないので、夏生まれの方には他のメニューをお願いしているのですが、それでもダントツ1位でした。

今池平和寮では、お造り用の魚は、卸売市場から直接持つて来て頂いているので鮮度は抜群。人気のヒミツはこういうところにあるようです。

栄養士 竹中 由香



近くの市場から新鮮な魚をいつも運んでくれる業者さん

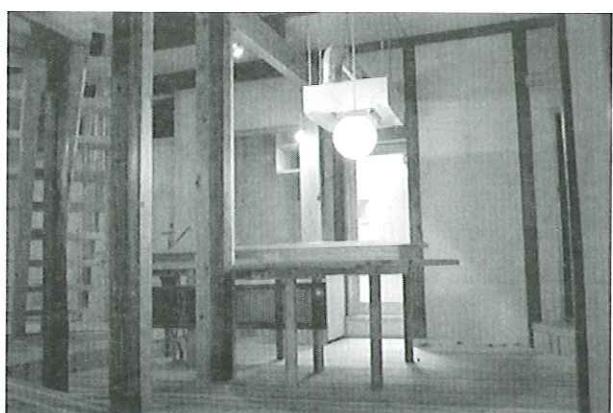
昨年は毎日新聞（夕刊の一

面に掲載されました）や雑誌ご縁もあり、今年に入り、長大阪人にも記事が掲載される屋・町屋めぐりの交流会などにも『一會』が度々利用されています。

一方、開設当時よりおはなし会の会場としてご利用いただいているのが、「もものこぶん」さんです。毎月第三土曜日の午後におはなし会を実施しており、周辺地域の親子と絵本の出会いを支えて来られています。また、一會に居住している利用者も準備を手伝うなど、利用者の地域交流の場ともなっています。

八月に阪南町で常設の文庫が開設されましたが、『一會』でのおはなし会は今まで通り実施される予定です。小さなお子様がおられる方はぜひ一度見に来て下さい。

濱原 賢次



◆太平

九人の精鋭達



太平では今年度より障がい者自立支援法に基づく新体系に移行し、約二年ぶりに農耕班が復活しました。長い間、放置されていた畑は荒れ果て、草がぼうぼうに生い茂っていました。その荒野に降り立った我が農耕班の精銳達。職員があれこれ説明するまでもなく、次々に草が刈り取られ、大地が耕されていきます。数日後にはきれいな畝がきられた黒々とした色の立派な畑ができあがっていました。

さて、お次はいよいよ苗の植え付けです。植える野菜は夏野菜の定番、きゅうりにトマト、ピーマン、ゴーヤなどです。また、秋の味覚、さつまいも植えました。

この秋号が出るころはちょうど、さつまいもの収穫時期でしょうか。ホクホクとした焼き芋の湯気の向こうに浮かぶ、利用者さん達の嬉しそうな笑顔が今から想像できます。

池田浩明

◆アテナ平和

第二回 美章園阿手名寄席

平成二十三年五月十五日に『第二回美章園阿手名（あてな）寄席』を開催いたしました。昨年九月に第一回を開催し、待望の第二回です。今回は、桂ざこば様、幸助・福助様、桂丸福様、桂福六様、桂福点様にご出演いただきました。そして、なんと！約二百名のお客様が来て下さり満員御礼となり、会場は大きな笑い声に包まれました。

アテナ平和にこんなにも多くの地域の方が足を運んで下さるなんて、嬉しい限りです。日々の業務の中では、障がいについての正しい理解を伝えるための講演活動などを通して普及啓発活動に取り組んできましたが、このようなイベントを通して地域との繋がりを肌で感じができる普及啓発活動もあるんだな、と勉強になりました。

山本 悠美子

参加者の声

- ・ざこばさんの落語、すごい良かった。
- ・目の見えない落語家（福点様）の落語に共感しました。
- ・ざこばさんの「子はかすがい」の落語に感動した。子どもの事を考えてしまい、今、落語を思い出すだけで涙がこぼれてしまいます。

- ・プロの落語家さんに会えただけでも感動でした。
- ・手が届きそうなぐらいの所に落語家さんや漫才師さんがいらっしゃったので、ビックリしました。次にテレビで見た時には親近感を感じますね。



最後になりましたが、前回に引き続きご協力いただきました関西演芸協会様、文の里東町長であり当法人の評議員である奥田様、そして今回、ボランティアとして手伝って下さいました家族会の皆様、足を運んでいただきました地域住民の皆さんに心よりお礼申し上げます。



地域活動支援センターまつのき園は、登録者数九十二名、障害別内訳は身・知・精三：一：六、男女比はほぼ同じ、年齢分布は身体障がい者は六十歳代が約半数、精神障がい者は三十～四十歳代が六割を占めています。

まつのき園では、自立支援法の理念どおり、様々な障がいのある方々が活動と共にされています。しかし、『障がいが違う』という大きな隔たりがあるなか、同一空間で過ごしていくことは、時に難しい場面もあります。



平井早笑

とはいって、私達が暮らすこの社会ではいろんな人が同じ地域で支え合って生活しています。まつのき園はその縮図に他ならず、この小さな空間で学び得るものは少なからず社会にも反映されるかもしません。『障がい者』としてではなく、『多種多様な個性』として生活のしづらさを捉え、共に住みやすい環境を築いていくよう努めていきたいと思います。

地震は保育園の午睡中だったのですが、保育士は常々訓練してきた事から冷静に行動できました。

まずパジャマからの更衣では、当時はまだ寒く、防寒着を着せるのに多くの時間が必要で、緊急時の中大変であった事が想像されます。そのあと全ての子どもたちを連れて津波からのがれることができたそうです。

さて、たんぽぽ園は…

今のところ避難訓練は年に二回実施していますが、津波などの訓練はできていませんでした。

そこで改めて津波の避難先への移動コースを決め、子どもたちの散歩コースにも取り入れながら、こだわりや抵抗なく目

◆さつき園・まつのき園

障がい種別を超えて

◆阪南市立たんぽぽ園

東日本大震災から
感じたこと

的でまでたどり着けるようなり組みを始めました。

また子どもたちがパニックにならないよう、コース要所の写真を用意し、見通しが立てやすいように準備をしました。

まだまだ計画にはころびはありませんが、話し合いを持つことで、非常時にに対する職員の心の準備が少しずつ出来上がってきたと感じています。

今回避難所において障がい者、ご家族がその場所に居づらくて難儀したという話も多く聞いています。次は避難所での用意について話し合っていきたいと思います。

豊田敦子



法人本部としての機能がスタートしてから、一年半の月日が経とうとしています。この間、給与・財務や各規則等の統一化を主に図つきましたが、今後は更に、一元的に把握できていない職員の情報管理を集約し、職員管理・福利厚生の基礎データとして役立てていきたいと考えています。また、それに伴い人事部門の強化を図る一環として、八月一日付で伊藤勝啓氏を法人本部事務局次長として迎えました。

その1 人事部門強化のため 本部事務局次長就任

法人本部 ニュース



僕の取り柄と盲導犬
栗山 龍太 & ダイアン

君は、現在横浜の視覚支援学校等の理療課程の先生をされる側で、鍼灸・按摩・指圧・マッサージら、武道館を目指してミュージシャンとしても頑張っています。栗山君のCDは本部でも販売していますので、購入希望の方はお問い合わせください。

また、盲児施設平和寮で十四歳から二十歳までの六年間を過ごされた栗山龍太君が、昨年の十一月十九日に株式会社Birthday Eveより、CD「僕の取り柄と盲導犬」を全国リリースしました。十一歳で全盲になった栗山

その2 盲児平和寮OB 栗山龍太さん CDデビュー

第139回評議員会・第145回理事会において下記のとおり平成22年度決算が承認されましたので公告します。
H22年度資金収支決算書(単位:円)

収入	
授産事業収入	31,934,964
経常活動による収入	2,103,493,659
施設整備費等収入	34,913,900
財務活動による収入	121,956,460
収入合計	2,292,298,983

支出	
授産事業支出	32,014,964
経常活動による支出	2,043,710,841
施設整備等による支出	56,631,536
財務活動による支出	133,257,611
支出合計	2,265,614,952

当期収支差額	26,684,031
前期末収支残高	578,496,439
当期末収支残高	605,180,470

資産の部	
流動資産	690,466,708
基本財産	1,507,524,272
その他の固定資産	832,496,462
資産の部合計	3,030,487,442

負債の部	
流動負債	84,382,973
固定負債	263,472,860
負債の部合計	347,855,833

純資産の部	
基本金	120,890,609
国庫補助等特別積立金	739,059,638
その他の積立金	585,938,572
次期繰越活動収支差額	1,236,742,790
純資産の部合計	2,682,631,609
負債及び純資産の合計	3,030,487,442

利用者本位の目線で

理事長 西川佳夫

今年は三月の未曾有の東北大震災に始まり、まだまだ復興がままならない中で、更に追い討ちをかけるかのように近畿地方を襲った台風の大災害。自然の力の恐ろしさをさまざまと見つけられたのと同時に、人間の無力さも感じさせられたことと思ひます。先日、北区の太融寺に立ち寄ったとき、掲示板に目をやると「持ちつ持たれつ 世の中は助けられたり助けたり」という言葉が書かれていました。

我々に出来ることはお互いに助け合うこと。阪神大震災では多くの方に助けられました。今度はその恩を返す番・・・まさに「助けられたり助けたり」ですね。

この四月から『太平』『IL伯太』『ぶるうむ此花』『さつき園』が新法下の事業に移行したことは、前回お知らせしたとおりですが、各施設とも利用者の方に対するカリキュラムの見直し、

震災に始まり、まだまだ復興がままならない中で、更に追い討ちをかけるかのように近畿地方を襲った台風の大災害。自然の力の恐ろしさをさまざまと見つけられたのと同時に、人間の無力さも感じさせられたこと

であります。いかに利用者の方に満足していただけるかが、職員ひとりひとりの努力、創意工夫にかかっています。『仏作つて魂入れず』の諺にあるように、

新法に移行しても内容的に今までと変わらなければ、いずれ利用者の方や家族の方から見放されてしまうことでしょう。今までのやり方だけ(支援)に固守し、与えられた仕事だけを無難にこなしていくだけでは今の福祉の流れに乗り遅れていってしまいます。常に利用者の目線で、何が必要なのか、どのようなサービスを提供していかなければいけないのか、どのような支援が最適なのかを考えながら仕事をしていくなければなりません。

管理・監督者はそれに対してもリスクを回避し、職員のモチベーションを高めていくか、常勤、非常勤を問わず質を高めていくか、いかに新しい事業展開と結びつけていくかが大きな鍵となります。質の高いサービスの提供、各々の施設がこれからどのように特色を出していく現実の問題として出てくるでしょう。いかに利用者の方に満足していただけるかが、職員ひとりひとりの努力、創意工夫にかかっています。『仏作つて魂入れず』の諺にあるように、

前々回の理事会で、一部の役員の方から要望がありました法人内の施設見学会を、七月から八月にかけて四回行いました。大半の役員の方が『どこに施設があるのか』『どのような環境下にあるのか』『どのような事業をしているのか』『どのような問題を抱えているのか』等、わからぬ点が多くあつたと思われます。これを機に少しは理解をして頂きます。

日本ヘレンケラー財団本部
吉永 広治 様 百五十万円

勝美トシコ様より千八百三十五万円のご寄付を賜りました。
勝美様のご意志を尊重し、障がいを持つた方々の福祉に役立させて頂きます。

東 直子 様 百万円

(故)荒川千鶴様のお母様
東様のご意志を尊重し、利用者の方の余暇活動の費用として役立たせて頂きます。
太平

最後に、法人本部もこの二年で、社会保険、給与の一元化を図り、職員の情報一元化にも積極的に取り組んでおり、更にこの夏には事務局次長を迎え、本部強化にも力を入れております。これからも利用者目線にたつた支援を心がけ、利用者の皆さんに喜んでいただけるよう一層の努力を期待します。

吉永様から頂きましたお気持ちに感謝し、今後の業務へ繋げて参ります。
ぶるうむ此花

寄付・寄贈

ご寄付・ご寄贈

平成二十三年三月～八月末までの
寄付・寄贈です。

救護施設
平和寮

かづらぎ合唱団

傘木 澄男様 二万円
雑巾を縫う会様 一万円

栗谷 信子様

盲兒施設 平和寮

四月八月

阿倍野区社会福祉協議会会长

阿倍野区民生委員協議会会长

篠崎
敦子様

熊本県經濟農業協同組合連合会

上村 幸男様

大阪府玩具・人形問屋協同組合連合会

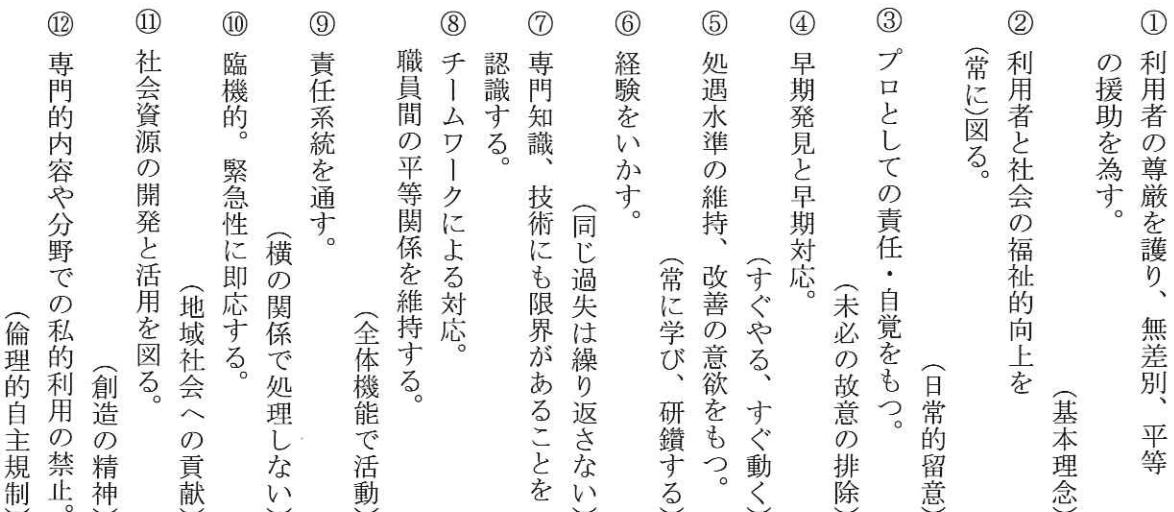
山本
茂様

山口
まゆみ様

トランボリン

大阪府老人クラブ連合会

社会福祉法人 日本ヘレンケラー財団
「叡知恵」の倫理的自主管理理念



名 称	種 別	所 在 地	電 話
法人本部	事務局	〒545-0011 大阪市阿倍野区昭和町 3-4-27	06-6628-2229
平和寮	救護施設	〒545-0011 大阪市阿倍野区昭和町 3-4-27	06-6628-6151
平和寮	盲児施設	〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町 3-27-2	06-6621-4583
太平	障害者支援施設	〒594-0023 和泉市伯太町 3-13-68	0725-45-2760
太平学園診療所	診療所	〒594-0023 和泉市伯太町 3-13-68	0725-43-9066
ぶるうむ此花	生活介護事業所	〒554-0024 大阪市此花区島屋 3-2-32	06-6468-7898
今池平和寮	救護施設	〒557-0003 大阪市西成区天下茶屋北 1-4-6	06-6633-3161
I L 伯太	障害者支援施設	〒594-0023 和泉市伯太町 3-13-57	0725-41-8191
阪南市立 さつき園	多機能型事業所	〒599-0211 阪南市鳥取中 9-1	072-471-6868
阪南市立 まつのき園	地域活動支援センター I 型	〒599-0211 阪南市鳥取中 9-1	072-471-6863
アテナ平和	障害者支援施設	〒545-0003 大阪市阿倍野区美章園 3-7-2	06-6629-2062
阪南市立 たんぽぽ園	児童デイサービス	〒599-0203 阪南市黒田 468-1	072-473-2816
各駅停車	地域生活支援センター	〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町 3-35-2	06-6629-7778
じょいふるはかた	地域生活支援センター	〒594-0023 和泉市伯太町 1-12-50	0725-58-7512

編集後記

秋晴れの過ごし易い季節となりました。

今年から各施設の名称が変更し、看板が新しいものに替わりました。今回の表紙は名称変更した施設の看板を囲んで集合写真をとりました。新出发をかざる門出になればと思います。

今後も職員の一人ひとりが叡知恵の理念に基づき、頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

救護施設平和寮の岡本厚子看護師が叙勲の内示を頂戴しました。詳細は次号にて。

編集委員長 村井 康彦

編集委員 濱原 賢次 (救護施設平和寮)
 佐々木 俊宏 (盲児施設平和寮)
 山本 悠美子 (アテナ平和)
 島崎 茜 (太平)
 岩田 憲治 (ぶるうむ此花)
 中西 博美 (今池平和寮)
 南 洋一郎 (I L 伯太)
 山本 ひろみ (さつき園・まつのき園)

東日本大震災現地報告

てよいか分からぬ。

大阪がもし地震に遭つたら、一番先に僕達がかけつけますから。」こみ上げて来る感情を抑えずにはいられませんでした。

【障がい当事者からの復興】

また七月五日(火)には、関西

にあるNPO・NGO支援組織がこの被災地支援にどう動いてきたか、今までと今後を話し合う、東日本大震災・被災地支援市民活動フォーラムに参加してきました。

そこでは、「現地障害者はどう感じたかー支援から見えた課題」と題して、特定非営利活動法人ゆめ風基金さんの支援報告を聴くことが出来ました。

被災者の方々が一齊に避難を余儀なくされた避難所では、避難者の大多数を占める健常者の中に、障がい者の方も入り込み、支援がなかなか行き届いていません。そんな中、阪神淡路大震災を契機に、障がい当事者自身で、当事者に合った生活再建を!という視点を持ち、活動されている、ゆめ風基金さんの動きには、一筋の光が見えているようでした。仮設住宅でさえ、障がいの方々が

住むには必要最低限でない現状

があるように映りました。障がい者も健常者も、分け隔てなく被災しているけれど、かけがえの無い物事・人命を失った悲しみを共にし、その痛みと共に歩き出していける、生きていく力を、信じてやみません。

また、台風十二号の上陸により、三重・奈良・和歌山県で、土砂災害が発生しております。各県の社会福祉協議会で被災地域の情報が集まり始めています。

二つの大災害を前にし、自分にはどのような援助が出来るかについて、あらためて考えさせられました。

日本障害フォーラム（JDF）

みやぎ支援センター派遣報告書

九月二日より十一日まで宮城

県遠田郡涌谷町に事務所を置く、JDFみやぎ支援センターにて、東日本大震災を被災された障がい者のみなさまを事務局員として支援してまいりました。

支援を担当した被災地域は、石巻市と女川町でした。石巻市は津波の被害が最も大きかった自治体で、三一七〇人の方の命が失われ、七百五十九人の方が未だに行方不明となつておられます（九月十二日現在）。女川町も二十メートル近い津波にのみ込まれてしまい、三階建ての町役場すべてが津波の被害に遭ってしまいました。そのためほとんどの情報が流れました。石巻も女川多くの障がい者の方たちが、避難所や仮設住宅で、不自由な暮らしを強いられておられました。



東日本大震災で被災した障害者を支援するケア付き仮設住宅「日本財團ホーム 小国の郷」が完成石巻市に完成した。

救護施設平和寮

震災から六ヶ月がたち、約九十四%の仮設住宅が

完成しました。その仮設住宅も、

障がいの方からすると、不便な点が多くあります。それらを

解消するべく、JDFの支援員は、たくさんのニーズを聞き取り調査を行つております。そし

て、人的支援・物的支援を行つてきます。主な人的支援は移動支援や引越し支援です。移動手段の乏しい状況であるため、多くのニーズがあります。物的な支援は、障がいをお持ちの方が生活していく上で必要な物品なら、一万五千円まで、JDFで購入することができます。それ以上のものの場合は、他の機関に申請し、支援しても

らいります。

JDFの支援は十二月まで延期されました。これからも多くの障がい者の方たちの支援を行つていくことになると思いま

鐘ヶ江康郎

東日本大震災

法人の職員が被災地へ要請による派遣、現地ボランティアという形でそれぞれ向かいました。現地での状況をそれぞれ報告させていただきますので、是非ご一読下さい。

当事者の視点からの復興を

さつき園 支援員 中尾太樹

【被災地支援の取組み】
甚大なる被害をもたらし、なおも現在進行形の大災害を目に、何か出来る事はないかと探つてゐる。地震発生直後は、原発事故に起因する放射能被害の甚大さから身を守るための情報が、メールで複数、届き始め、関東や東北に近い友人に連絡を取り、安否を確認しつゝ、身を守るために情報のやり取りが始まった。この時点で、テレビから聞こえるニュースは既に、インターネットメディアの後追いになつており、専ら自分の心身を使って調べる情報の方が確かなことを実感していた。

震災から時間がたつにつれ、その被害の甚大きさがありありと浮かんでくる。ニュースを見聞きする

たび、こちらまで疲弊してしまうくらいの有り様。

そんな中で、被災地で活動し始めた仲間の情報が入るようになつた。場所は宮城県石巻。拠点は専修大学。

また、さつき園のバイオディーゼル燃料精製事業でも協力している佐野工科高校の山田先生から、被災地の方々の凍える心身を温める、廃材燃料給湯器の製作完成の連絡が來ていた。

刻一刻と被害は甚大化していく。しかし、大阪に住む自分には、すぐに被災地に行つて役に立てる準備をするには、時間がかかる。

石巻専修大学と、山田先生を繋ぎ、五月十三日（金）の深夜、ハイエースに廃材燃料給湯器を積み、いざ出発。



↑設置後、お湯を貯める所
(耐水布で作った簡易浴槽)



↑廃材燃料給湯器



→風力発電機(宮城県)

卷専修大学の活動拠点へ、一日単位で変わる被災地のニーズをつかみに行く事、でした。

【イチゴ農家さん】
山元町でのイチゴ農家さんとの出会いは、胸を打つものがありました。

まずは廃材燃料給湯器の設置を行い、農家のお子さんと一緒に、燃料になる廃材を探しにビニールハウス周辺を歩きます。そこに広がっていたのは、田畠の上にある筈のない、津波によつて流されてきた材木。恐らく沿岸部に住む人々の生活を支えていた家屋などの倒壊から出てきた大切なモノ。

『瓦礫』と呼ぶには簡単すぎて、あまりに心の無い言葉のように感じられます。

拾い集めてきた大事な木材を燃料にして、今生きる人たちの役に立たせていただくべく、実演を行ひ、私達が去つた後も農家の方々が、廃材燃料給湯器を使用出来るように山田先生が使い方の説明をされておられました。

設置を追え、一段落し、少しお話をさせていただいた後、イチゴ農家さんを繋いでくださつた方が、「自分たちにも出来る事はないか? 何か手伝いたい。」と、来てくれる。ありがたい。どうやつてお返しし